

第7回米百俵賞特別賞受賞

(平成15年6月15日表彰)

近藤 亨 (ネパール王国)



ネパールの秘境で不可能とされていた稲、野菜、花などの栽培に成功し、現地に暮らす人々に大きな夢を与えた。

■受賞時プロフィール

新潟県園芸試験農場研究員を務めていた近藤氏は、昭和51年から13年間にわたり、国際協力事業団（JICA）からネパールに農業開発プロジェクトリーダーとして派遣され、ヒマラヤ山麓の果樹栽培振興に尽力する。

平成2年、70歳でJICAを退職した後、私財をなげうって単身ネパール王国ムスタンに定住し、農業開発技術等の普及奉仕活動を開始した。ネパールの中でも特に政策から取り残された、標高3,000メートルを超える山岳地帯の秘境ムスタンの立ち遅れた農業開発と教育環境に心を痛めたからである。

平成4年にヒマラヤ山麓の農村開発を目的としたNGO団体ネパールムスタン地域開発協力会（MDSA）を設立。年間降雨量がわずか100から150ミリという極端な乾燥地帯。平均風速15メートル以上の強風が吹き荒れる世界屈指の不毛の大地に、これまで不可能とされてきた稲や野菜などの農作物の栽培に成功し、ムスタンで暮らす人々に大きな夢を与えてきた。

一方で、生活の貧しさにより働いていた子どもたちのために、これまで10校の学校を建設し、ネパールで初の学校給食を無料で開始した。このことにより登校率を100パーセント近くまで伸ばした。さらに、村の農場で採れる農産物を使っ

た献立により、学童の体力向上、栄養補給をはかり、郡のモデル校に指定された。

また、小中学校に自転車、学用品、学校花壇などを寄贈し続けたほか、高等学校の建設、小中高一連の教育の充実に心血を注いだ。

平成 11 年には、医師、看護婦さえ 1 人もいなかったムスタンの地に病院を建設。診療を開始し、人々にとても感謝されている。

氏は、1 年に 2 回、日本へ一時帰国し、寸暇を惜しんで小中学校で自らの体験について講演を行った。海外でのボランティア活動の声に触れた日本の生徒が、自主的に街頭募金や学用品集めなどの支援活動を展開するなど、日本においても青少年の育成に大きな影響を与えた。

■主な受賞歴

- 平成 9 年 スプラバル・ジャナセワス
リー 1 等勲章
- 平成 11 年 吉川英治文化賞
- 平成 12 年 読売国際協力賞
- 平成 13 年 新潟日報文化賞
- 平成 20 年 安吾賞